

【概要】

13. 維管束植物

維管束植物は、シダ植物と種子植物を含む植物群である。鳥取県内に自生する維管束植物のリストはいまだ整理途上であるが、現在までのところ2000種以上が確認されている（鳥取県植物誌調査会 私信）。これらのうちレッドデータブックとっとり初版（2002）では、絶滅が危惧される植物として330種が選定された。

レッドデータブックとっとり初版の刊行により、鳥取県内でも絶滅危惧生物に関する意識が高まり、約10年の間に県内の調査員を中心に、野生植物の自生記録の蓄積がすすんだ。今回、準備期間のほとんどない中で改訂作業ができたのは、調査員の方々のふだんの調査のおかげである。今回の改訂では、初版で選定された330種に加えて、新たに133種について絶滅危惧の検討をおこなった。

その結果、今回の改訂では鳥取県内で絶滅が危惧される植物として404種を選定した。今改訂で新しく選定されたのは82種であった。これらの中には、この10年間に県内であらたに記録された種も多い。ハマハナヤスリ、ホソイノデ、ミヤマビャクシン等は初版のとりまとめ以降に、確実な自生記録が得られたものである。

初版からは、8種が除外された。野外調査の蓄積により、県内での多産が確認されて外れたのはオカヒジキ、コウモリカズラ、ミズマツバ、マルバノホロシ、ムサシアブミの5種である。サンインギクは雑種で野生植物としての実態がないこと、ケンサキタンポポはヤマザトタンポポと区別できないこと、アオイゴケは栽培逸出の可能性が高いことから除外した。改訂作業ではこの他に51種の絶滅可能性を検討したが、多産であったり、または県内での確実な生育が確認できなかったりといった理由で、最終的にはリストから除外した。

初版で絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）だった種のうち、今改訂で絶滅危惧Ⅱ類（VU）など、改善方向に評価を変更した種は21種あった。これらは状況が改善したというより、調査の蓄積により確認数が増加した、あるいは明らかな減少がみられないことにより、絶滅可能性評価を変更したものがほとんどである。初版から絶滅可能性評価が悪化して今回、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）に追加した種は40にのぼる。鳥取県内における維管束植物の生育状況が改善したとは言い難い。継続的な保全努力の継続が強く望まれる。

今改訂では、情報不足（DD）として8種を選定した。

鳥取県内で、生育実態がある程度わかっている植物はいまだごく少数に過ぎず、一層の調査努力が必要である。調査員が減少・高齢化するなか、社会の関心を高めて多くの種の生育実態解明につなげていく必要がある。今後の調査や幅広い保全の努力により、今回選定された404種の中から、個体数増加、状況改善によりこのリストから外れる種が次々現れることを期待したい。

（永松 大^{だい}）

■引用文献

注1：種の和名、科名、種の配列と種の記述は、下記の文献にしたがった。学名は基本的に Y-list（米倉・梶田 2003-）にしたがった。

岩槻邦男（編）（1992）日本の野生植物 シダ. 平凡社（東京）311pp.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）（1982）日本の野生植物 草本Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ. 平凡社（東京）Ⅰ：305 pp, Ⅱ：318 pp, Ⅲ：259 pp.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）（1989）日本の野生植物 木本Ⅰ、Ⅱ. 平凡社（東京）Ⅰ：321pp, Ⅱ：305 pp.

米倉浩司・梶田 忠（2003-）「BG Plants 和名-学名インデックス」（YList）, http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html（2010.12.20）.

注2：分布欄における自治体名についての補足

2004年に合併した鳥取市は新市域が広いため、「分布」では旧町村単位まで記述した。

記述例1：「鳥取市・福部町・佐治町」鳥取市の旧市内（鳥取地域）と福部地域、佐治地域それぞれに分布記録があることを示す。

記述例2：「鳥取市国府町・鹿野町」国府地域と鹿野地域にのみ分布記録があることを示す。

注3：特記事項欄における「採取禁止指定種」についての補足

「国立・国定公園採取禁止指定種」：自然公園法に基づき、鳥取県域の国立公園（大山隠岐／山陰海岸）または国定公園（氷ノ山後山那岐山／比婆道後帝釈）の特別地域内で採取が禁止されている指定植物を示す。指定植物は公園ごとに選定されているが、字数制限のため、公園名は省略。なお、国立・国定公園の特別保護地区内では全ての動植物の採取禁止。「鳥取県条例採取禁止指定種」：「鳥取県希少野生動物植物の保護に関する条例」に基づき、鳥取県内で採取・損傷が禁止されている「鳥取県特定希少野生動物植物」の指定種を示す。

スギラン ヒカゲノカズラ科

Huperzia cryptomerina (Maxim.) Dixit

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



若桜町 2010.10.12/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：着生に適した自然林内の落葉広葉樹の古木減少，生育環境悪化のために，自生地および個体数の減少が顕著。

■**特徴**：ブナ帯域のブナ，ミズナラ，トチノキなどの古木に着生する常緑性シダ植物。外見はスギ苗に似る。茎は分岐して斜上，胞子がつくようになると下垂する。葉は狭披針形，長さ1-2 cm，中央部が最も広い。氷ノ山ではミズナラ，トチノキ枯死のため着生木周辺が乾燥し，消滅した。若桜町広留では近年，ナラ枯れによりミズナラが多数枯死し，着生のスギラン，シノブ，ホテイシダ，ミヤマノキシノブなどが減少。2010年，当地では1本のトチノキに6株のスギラン着生が確認されるのみ。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林帯溪谷の自然林の保護と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヒメスギラン ヒカゲノカズラ科

Huperzia miyoshiana (Makino) Ching

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2004.7.21/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では，氷ノ山や大山のブナ林下のごく限られた岩場や林床に少数がみられるのみで，個体数も減少している。

■**特徴**：ブナ林下の林床やコケの生えた岩場にはえる小形の常緑性シダ植物。茎は又状に分枝し，直立，頂端に芽体をつける。葉は針状披針形で基部から細くなり鋭頭，全縁。胞子嚢は茎の上部の葉腋につける。類似のスギランは，樹上着生が多く，葉が狭披針形で中央部が最大となる。平地から山地にふつうに見られるトウゲシバ（写真左側）は，葉の辺縁に不規則な鋸歯がある。氷ノ山の1集団は2005年より規模が減少しており，周辺の樹木の生育状況悪化と採取によるものと思われる。

■**分布** 県内：若桜町，大山町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林および山頂部の自然植生保護と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ミズスギ ヒカゲノカズラ科

Lycopodium cernuum L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



八頭町 2007.10.20/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：暖地の日当たりのよい湿潤地に生育するが，県内では生育適地の減少により，自生地，個体数ともに減少傾向。

■**特徴**：日当たりがよく大型の草本が少ない切り通しや崖地などに生える常緑性のシダ植物。匍匐枝が地表をはい，ところどころから側枝を直立させる。通常は高さ20 cm程度。胞子嚢穂は小枝の先につき，小型で下垂する点で，ヒカゲノカズラと大きく異なる。ヒカゲノカズラは乾いた陽光地に多く，長く匍匐してマット状に広がり，より大型の胞子嚢穂を直立させる。

■**分布** 県内：鳥取市，八頭町，湯梨浜町，琴浦町に計数カ所点在。 県外：関東以西の暖地。東北地方にもわずかにある。

■**保護上の留意点**：丘陵地の日当たりのよい小川周辺の草地維持。ススキなど大型草本の刈り払い。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

アスヒカズラ ヒカゲノカズラ科

Lycopodium complanatum L.

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



兵庫県宍粟市 2010.10.1/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：日野郡江府町の朝鍋鷲ヶ山 (1074 m) の山頂部から尾根部の落葉広葉樹林林縁に1980年代までは生育が確認されていたが、山頂部周辺の開発による環境変化にともない、当地では絶滅した。

■**特徴**：地上性の小型常緑性のシダ植物。日当たりのよい山地に生育し、茎はひも状に長く地上をはい、多数の側枝が分枝、斜上して扇形に広がる。和名は扁平な直立茎をアスナロに見立てたものとされる。

■**分布** 県内：絶滅。県外：北海道、本州 (中部以北)。兵庫、岡山、徳島の各県にも点々と生育地があり、県内の個体群は、国内分布の西限にあたるものであったと考えられる。

■**文献**：64.

執筆：清水寛厚・坂田成孝

マンネンスギ ヒカゲノカズラ科

Lycopodium dendroideum Michx.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2003.10.24/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では大山と氷ノ山の高標高域に生育するが、氷ノ山では近年個体数が減少し、個体の生育状況も悪化している。園芸用採取のおそれもある。

■**特徴**：ブナ帯域の林床や陽地に生育する常緑性の小型シダ植物。匍匐茎は地中をはい、茎は直立して高さ5-15 cm程度。葉は微小で外見はスギに似る。孢子囊穂を茎の先端に数個つけ直立する姿が端正で、観賞用に使われる。氷ノ山では主に山頂に近いササ草原でみられるが、近年個体数が減少している。那岐山では40年ほど前は確認例があったが、近年確実な生育確認がない。

■**分布** 県内：氷ノ山、大山。県外：北海道から九州、屋久島。

■**保護上の留意点**：採取防止が必要。ブナ帯域の森林環境の保護・保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

カタヒバ イワヒバ科

Selaginella involvens (Sw.) Spring

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2004.5.11/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：やや湿った地上・岩上に生えるが、園芸目的で採取されるため、以前に比べて明確に減少している。

■**特徴**：岩上、樹幹に生育する常緑性の小型シダ植物。地下茎は長くはう。地上茎は長さ約30 cmに達し直立する。孢子囊穂は四角柱状。放射状に広がるイワヒバに対して、片側に開葉する。人里近くではカタヒバに似た栽培起源のイヌカタヒバが増えている。

■**分布** 県内：鳥取市・佐治町、八頭町、智頭町、三朝町、江府町、日野町。県外：宮城県から沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止。照葉樹林、谷沿いの自然植生の保護。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

ヒモカズラ イワヒバ科

Selaginella shakotanensis (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



三徳山 2010.8/撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：県内では、三徳山にて確認されているのみで、個体数も少ない。近年ナラ枯れなどで自生地の環境が変化しており、個体群が減少傾向にある。

■**特徴**：やや湿った岩上に生育する常緑性の小型シダ植物。細い円柱状で褐色をおびた茎がよく分枝して岩上をはい、重なりあってマット状になる。葉は長さ1mmほどの線状で、硬い。湿潤時は開出するが、乾燥時は縮れた状態になる。三徳山では、保水性のある凝灰岩に着生する。

■**分布** 県内：三徳山。県外：主に北海道、本州（中部以北）。西日本では数カ所に隔離分布。朝鮮半島，サハリン，南千島。

■**保護上の留意点**：自生地の環境維持。地域住民への保護意識の啓発。

■**文献**：48.

執筆：森本満喜夫

イワヒバ イワヒバ科

Selaginella tamariscina (P.Beauv.) Spring

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2009.6.12/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：日当たりの良い岩上に群生するが、以前から園芸用に乱獲があり、現在は人の手の届かない岩壁にのみ残る。

■**特徴**：山地のやや湿った岩上，岩隙に多いが，乾燥岩地にも生育する常緑性のシダ植物。担根体や根がからみ仮幹をつくる。頂端に平面的に分枝する葉身状の枝を放射状につける。分枝は2-3回羽状で，乾燥すれば内側に巻き込み，耐乾性をもつ。初版時から明らかな減少はなく，調査が進んで確認地点が増えたため，今改訂ではNTとした。

■**分布** 県内：若桜町，鳥取市・佐治町，三朝町，琴浦町，伯耆町，江府町，日野町，日南町に点在。県外：北海道から沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止。やや湿った岩場および周辺の植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

ミズニラ ミズニラ科

Isoetes japonica A.Braun

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市 2004.6.29/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：水田環境の変化，水湿地の減少により，県内での生育適地が減少した。県内の自生地と個体数はともにきわめて少ない。

■**特徴**：ため池，水路，水田，湖沼などに生育する夏緑性のシダ植物。針状のやわらかい葉が多数叢生し，高さ10-30cm。外見はニラに似る。葉の基部は白色でふくらみ，内側に孢子囊がみられる。水中性で湯水期には水のひいた場所でみられる。

■**分布** 県内：鳥取市・福部町・気高町，北栄町，倉吉市，大山町，南部町，米子市など低地の水湿地。県外：北海道，本州と徳島県。

■**保護上の留意点**：特にため池や水田周辺の水湿地改変の防止。農薬使用の低減化。

■**文献**：67.

執筆：田中昭彦

ヒメハナワラビ ハナヤスリ科

Botrychium lunaria (L.) Sw.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山 2007.8.12/撮影：山本悟司

■**選定理由**：大山山頂部の草地に生育するが、きわめて希少。大山山頂部は自然崩壊がひどく、ヒメハナワラビの生育地も同様で、絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：高山の日当たりのよい風衝草原や岩場にまれにみられる夏緑性の小型シダ植物。根茎は短く匍匐。高さ10 cm内外。葉は1回羽状複葉で1枚、厚質、羽片は3-5対扇形。孢子葉は穂状に3回羽状に深裂、球状の孢子嚢をやや密につける。現在大山山頂部の草地に3カ所の自生が確認されており、分布南限と思われる。個体数はわずかで、いずれの生育地も年々崩壊しているため、いずれは絶滅する可能性が高い。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道，本州（中部以北）の高山帯にまれ。

■**保護上の留意点**：生育地の崩壊を止めることは困難。採取防止の徹底。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ナガホノナツノハナワラビ ハナヤスリ科

Botrychium strictum Underw.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取県博所蔵標本：若桜町 1988.8.7 田中昭彦

■**選定理由**：県内では、1カ所で1988年に生育が記録されて以降、確認ができていない。2009年に自生地付近が調査されたが見つめることができず、絶滅が心配される。

■**特徴**：山地の陰湿な林の下に生育する夏緑性のシダ植物。ナツノハナワラビと同じ分布域に生育するが、分布はより少ない。孢子葉と栄養葉は地面で分岐せず、直立する共通柄の先に孢子葉と栄養葉をつける。孢子葉がナツノハナワラビよりも細長く、小羽片の切れ込みも少ない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州，四国，九州に分布するが、西日本では比較的まれ、とされる。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**文献**：28.

執筆：田中昭彦

コヒロハハナヤスリ ハナヤスリ科

Ophioglossum petiolatum Hook.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



岩美町 2001.6.18/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の確実な自生地は現在岩美町と鳥取市のみで、個体数もきわめて少数。生育状況は不安定、前年の生育場所で翌年に見られないこともしばしばある。

■**特徴**：神社の社叢，墓地，山野の路傍などに群生する夏緑性の小型シダ植物。葉は1-3枚，単葉で広卵形-長楕円形，長さ1-6 cm。基部は切形で短い柄がある。孢子嚢穂は細長い棒状，長さ2-4 cm。明るい場所を好み，遷移がすすむと消失する。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市。県外：東北地方中部から沖縄。本来は暖地に広く分布する。

■**保護上の留意点**：過度の踏みつけ防止など自生地の保全。除草剤の使用に留意。

■**文献**：13.

執筆：田中昭彦

ハマハナヤスリ ハナヤスリ科

Ophioglossum thermale Kom. var. *thermale*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日野町 2010.6.20 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：近年、県内西部で1カ所自生が発見された。自生地では環境変化による生育条件悪化の兆しがあり、保護対策が望まれる。

■**特徴**：日当たりがよい砂質地に生える夏緑性の小型シダ植物。根茎は短く、多くの個体は数枚の葉を叢生する。高さ10 cm内外。栄養葉は小さく、線形-卵形まで変異がある。葉の基部は孢子葉の柄と合体する。孢子の外皮には網目模様がある。自生地は造成された裸地で、真砂土が敷かれた砂質の場所。水のしみ出しがあり、一部は湿地状だが、ススキやイグサなどの大型草本や外来植物が広がって草地化しつつある。今後とも推移に注意し、個体群の維持に必要な保護対策を検討する必要がある。

■**分布** 県内：日野町。県外：北海道から沖縄。

■**保護上の留意点**：生育地の草原化の防止。採取禁止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヤシャゼンマイ ゼンマイ科

Osmunda lancea Thunb.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日野川 2010.5.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での分布は日野川の一部のみ、生育本数もごく少数。初版では野生絶滅、その後自生が再確認された。

■**特徴**：山地溪流沿いの岩上に生育する夏緑性シダ植物。ゼンマイに類似するが、小羽片が狭楕円形、先端と基部とも鋭突形、やや硬厚質である。生育地は、洪水時には水没する溪岸。過去確認されていた大きな転石上は、現在では採取と河川工事などにより生育を確認できない。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：北海道、本州（中部以北）。兵庫、岡山、徳島の各県にも点々と生育地があり、県内の個体群は、国内分布の西限にあたりと考えられる。

■**保護上の留意点**：園芸用採取防止。典型的な溪流沿い植物のため、ダム建設や河川工事など生育環境を破壊する行為の防止が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

オウレンシダ コバノイシカグマ科

Dennstaedtia wilfordii (T.Moore) H.Christ ex C.Chr.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取県博所蔵標本：若桜町 1974.10.23 清末忠人

■**選定理由**：山地の河川沿い石垣等に自生していたが、河川改修により自生地が減少し、絶滅の危険性がある。

■**特徴**：ブナ帯域の湿潤な岩隙や岩上、ときに林床にも生育する夏緑性の小型シダ植物。根茎は長く匍匐する。葉は2-3回羽状複葉、長楕円状披針形、長さ10-30 cm。裂片は深く切れ込む。孢子嚢群は裂片の先端部につき、胞膜はコップ状。現在の生育状況については、今後調査をすすめ、情報を蓄積していく必要がある。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、若桜町、智頭町、山地の水流近くの岩上。県外：北海道から九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の湿潤な岩場や周辺部の自然林保護。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

オオフジシダ コバノイシカグマ科
Monachosorum flagellare (Maxim. ex Makino) Hayata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2004.6.7 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地帯にのみ生育し、自生地が限られる。個体数も少ない。

■**特徴**：樹陰の岩上や露岩地に群生する常緑性のシダ植物。葉は長三角形、長さ20–60 cm、幅7–20 cm、最下小羽片は前側（内向き）につく。中軸に無性芽をつけることはない。葉柄は10–30 cmあり、赤褐色の細鱗片がつく。明らかな減少は報告されていないが、調査が不足気味である。

■**分布** 県内：智頭町、八頭町、鳥取市の三郡変成岩地帯。県外：関東以西から九州。

■**保護上の留意点**：森林伐採の防止、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：99.

執筆者：田中昭彦

フジシダ コバノイシカグマ科
Monachosorum maximowiczii (Baker) Hayata

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2008.12.4 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自生地、個体数とも限られており、土木工事による改変や災害による崩落によって自生地の一部が失われた例もある。

■**特徴**：地上や岩上に群生する常緑性のシダ植物。谷沿い樹陰の岩上や古い転石上に群生することが多い。葉柄は光沢のある褐色で無毛、葉身は単羽状複葉、長さ15–30 cm、幅3–4 cm、線状披針形。孢子嚢群は小さい円形。

■**分布** 県内：八頭町、智頭町、倉吉市、南部町。県外：福島県、本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地谷沿いの自然林保護。

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦

シノブ シノブ科
Davallia mariesii T.Moore ex Baker

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2007.6.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自生地、個体数ともに限られている。観賞用のシノブ玉をつくる目的で常に採取圧がかかっており、注意が必要である。

■**特徴**：河川上流部の山地溪谷沿い、乾いた岩上や樹木に着生する夏緑性の小型シダ植物。三角状卵形でやや硬質の葉が美しい。長さ10–20 cm、幅8–15 cm、間隔をおいてつく。孢子嚢群は裂片の先端につき、苞膜は深いコップ状。根茎は横走する。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、智頭町、鳥取市用瀬町・佐治町、三朝町、琴浦町、日野町。県外：北海道から沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地溪谷沿いの森林や岩場の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦

ハコネシダ ホウライシダ科

Adiantum monochlamys D.C.Eaton

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



三徳山 2007.5/撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：県内ではきわめて希少。やや乾いた半日陰の岩上に生育するが、採取圧もあり、ほぼ絶滅状態である。

■**特徴**：やや乾いた半日陰の岩崖などに生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉は下方に垂らし気味になる。葉身は三角状卵形で、三回羽状に分岐する。草丈20 cmほど。葉柄は細く光沢がある。利尿・通経の民間薬として利用される。ホウライシダに似て鑑賞価値があるが、栽培は難しい。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町の岩場2カ所。県外：本州（関東以西）、四国、九州。朝鮮半島、台湾、中国。

■**保護上の留意点**：鑑賞価値が高く、薬草としても利用されることから盗掘の可能性がある。厳重な採取防止と自生地一帯の植生保護が必要。

■**文献**：48.

執筆：森本満喜夫

タキミシダ シシラン科

Antrophyum obovatum Baker

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



鳥取県内 2008.5.3/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では1カ所でのみ自生確認。園芸用の採取圧や自生地の破壊により減少し、残る1カ所の個体数も希少。

■**特徴**：やや陰湿な溪流沿いの岩場に着生する常緑性の小型シダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。葉は倒卵形で厚皮質、全縁で特徴的な形態。葉脈は網目状。1950年代には鳥取市青谷町の民家古井戸内壁に自生が知られていたが、井戸の崩壊により絶滅した。初版の調査時まで県内では絶滅したと考えられていた。現存の個体数は10株ほど。

■**分布** 県内：非公開。県外：本州（関東以西）、四国、九州。東南アジア。

■**保護上の留意点**：盗掘の可能性が非常に高いため、自生地の公表禁止。厳重な採取禁止。水が滴る陰湿な環境の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：永松 大

ヌリトラノオ チャセンシダ科

Asplenium normale D.Don

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2010.10.7/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地域に生育し、他ではきわめて少ない。園芸目的に採取されることも多い。

■**特徴**：谷沿いの湿った崖面や岩上に群生する常緑性のシダ植物。根茎は短く、単羽状の葉を叢生する。葉身は披針形、長さ10–40 cm、幅4 cmほど。中軸の先端近くに無性芽を生じて子株が育つことがしばしばある。葉柄は針金状で漆塗りのような紫褐色光沢がある。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市の三郡変成岩地帯。県外：本州（茨城県以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島からヒマラヤ。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地谷沿いの岩崖地の保護。

■**文献**：99.

執筆：田中昭彦

カミガモシダ チャセンシダ科
Asplenium oligophlebium Baker

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2004.11.21 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地域に生育し，他ではきわめて少ない。園芸目的に採取されることも多い。
- 特徴**：陰湿な谷沿いに生える常緑性の小型シダ植物。ヌリトラノオの生育地と重なることが多いが，やや乾燥ぎみの環境を好む。自生地の数はいずれも少ない。葉は単羽状で長さ10–30 cm程度，羽片は波状に縮れ，独特のやせた形となる。しばしばヌリトラノオとの雑種を生じることがある。
- 分布** 県内：若桜町，八頭町，鳥取市の三郡変成岩地帯。県外：本州（愛知県以西），四国，九州。
- 保護上の留意点**：採取防止。山地谷沿いの岩崖地の保護。
- 文献**：—

執筆者：田中昭彦

オサシダ シシガシラ科
Blechnum amabile Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2004.4.5 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：自生地は少なく県内東部にややまれ。園芸目的に採取されることがあり，以前より減少した。
- 特徴**：深山のやや湿った岩盤上に生える常緑性のシダ植物。数は少ないが，自生地ではやや群生する。孢子葉，栄養葉の別のある二形性で，孢子葉は栄養葉より少し長くあまり立ち上がらない。葉柄には明るい褐色，楕円形の鱗片がつく。類似するシシガシラはやや乾燥ぎみの二次林に多産で鱗片が細く，羽軸が明瞭。
- 分布** 県内：若桜町，智頭町，鳥取市用瀬町・佐治町，三朝町。県外：本州，四国，九州。
- 保護上の留意点**：採取防止。山地谷沿いの岩崖地の保護。
- 文献**：—

執筆者：田中昭彦

ミヤマシシガシラ シシガシラ科
Struthiopteris castanea (Makino) Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



扇ノ山 2005.10.1 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内の自生地はきわめて少数で，もともと個体数は多くない。ブナ帯の溪谷沿いに生育するが，伐採や森林の荒廃など主に人為的な環境変化で個体数が減少傾向，絶滅の可能性はある。
- 特徴**：ブナ帯域の陰湿な斜面に生育する常緑性のシダ植物。群生することもある。葉は孢子葉と栄養葉の二形性がいちじるしく，孢子葉は栄養葉の2倍の長さがある。葉柄や葉軸の裏面は暗紫褐色，密に細点があり，触るとざらざらするのが特徴である。葉柄には線形の鱗片が密生する。
- 分布** 県内：扇ノ山，高鉢山，高山の高標高地溪谷沿い。県外：関東から北陸，山陰（広島県以北）に分布，山地下の斜面。
- 保護上の留意点**：ブナ帯地域，溪谷沿いの植生保護。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：24。

執筆者：田中昭彦

ヒロハヤブソテツ オシダ科

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa var. *macrophyllum*

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2010.10.18/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内で確認されている自生地は3カ所で、個体数は数十以下。若桜町ではシカによる食害がみられ、絶滅のおそれがある。

■**特徴**：やや陰湿な山地谷間に生育する常緑性のシダ植物。葉は単羽状複葉，羽片は大型で2-8対程度，通常，頂羽片は大きい。類似のヤブソテツ類とは羽片数が少なく，幅広，耳垂が発達しないことなどで区別される。

■**分布** 県内：若桜町，三朝町，江府町内の低標高地。県外：本州（中部以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止，山地谷沿いの自然林保護。

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦・森本満喜夫

ミヤコヤブソテツ オシダ科

Cyrtomium fortune J.Sm. var. *intermedium* Tagawa

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市福部町 2010.12.27/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では自生地が少なく個体数も少数。空中湿度の低下に弱く，森林伐採や河川改修にともなって減少している。

■**特徴**：丘陵地の照葉樹林内陰湿地に生育する大型の常緑性シダ植物。葉は単羽状複葉，長さ25-60 cm。羽片は10-15対，基部が最も広く，耳状突起が発達している。ソーラスは円形。基本種のヤブソテツと比べて，苞膜の中心部が黒色，周辺部が灰白色の2色となることが特徴。以前から自生が知られている鳥取市の神社境内では，モウソウチクの侵入によって生育が圧迫され，減少しつつある。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市福部町，江府町の照葉樹林林床に少数の株が点在。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：丘陵地の照葉樹林保全。

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦

ハチジョウベニシダ オシダ科

Dryopteris caudipinna Nakai

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2009.7.12/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：暖地性のシダで，太平洋側に分布の中心がある。日本海側の分布はまれで，生育地が限られる。

■**特徴**：広葉樹林の林下に生える常緑性のシダ植物。低地で規模の大きい照葉樹自然林を持つ社寺，公園などに見られる。広葉樹林内に多産するベニシダに似るが，葉身がやや大きく，小羽片が線状披針形-線形，先が少し鎌形に曲がり尾状，無柄，羽状に浅裂-深裂する。裂片は斜上，孢子囊群は小型でやや密に接してつく。類似のトウゴクシダは小羽片が卵状長楕円形-卵形，苞膜は赤くない。本種は2009年にはじめて県内での生育が確認された。県内西部では未調査。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市気高町・青谷町，倉吉市，琴浦町，大山町。県外：関東南部以西の太平洋側。

■**保護上の留意点**：自然性の高い照葉樹林の保護。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝